

2022年3月修了生12名のコメント ～2年間の研修を振り返って～

● 内原公之（2020年埼玉医科大卒）

臨床医をやっていく上で特別な力が必要なわけではない。大事なのはやる気で、それさえあれば人によって速度に差はあれど必ずいつかは良い臨床医になれる。」という内科指導医の一言が、この2年間で1番印象に残っております。つらいことも多々あり、間違っても優秀とは言えなかった自分ですが、いつか皆さんに信頼される放射線医になれるようこれからもコツコツと前進していこうと思います。2年間ありがとうございました。

● 金澤紀徳（2020年獨協医科大卒）

「また1から研修先を選べたとしても済中で研修したい」そう思える2年間でした。私は他で勤務したことがないため比較できません。そしてコロナ禍であったため例年と比較し制限されてたことも多かったかもしれません。しかし、同期、指導医の先生方、コメディカルの方々、臨床研修室の方々、済中に属する色々な方々のサポートのおかげで、何かに秀でてるわけでもないそんな私でも、患者さん1人1人に寄り添い、医療に没頭できる2年間でした。来年度以降自分が済中の研修医であったことに誇りを持ち精進して行きたいです。

● 柄澤宏至（2020年慶應義塾大卒）

医師としての基礎を学ぶ場所としては良かったと思います。医療に真摯に向き合ってきた先輩方が、意欲をもってその態度、技能を後輩たちに伝えようとする風土は、それを望んで入職した初期研修医の期待を裏切りません。一方で、自主性が重んじられるので、自分次第で如何様にもできるシステムで、バランスの良い研修ができました。

● 志水里瑛子（2020年慶應義塾大卒）

医学生として済生会中央病院の見学に来た際に、研修医の先生方が主体的に働いてる姿をみて、こんな研修医になりたいと思ってから早2年が経過しました。あの時想像した自分になれたかは分かりませんが、想像を遥かに超えて充実した楽しい研修生活を過ごすことができました。各科でいつも丁寧にご指導してくださる先生方、やる気があり面白い同期、元気で積極的な後輩たちに囲まれたお陰で、活気に満ちた研修を送れたと思います。2年間で医者として大事な事を沢山教えて頂き、お感謝の気持ちで一杯です。有難うございました。

● 徳富佑太郎（2020年関西医科大卒）

2022年3月に研修終了となった徳富佑太郎と申します。これを書いている時点ではまた研修医ですが、この病院で研修ができて本当によかったです。自分の患者さんに責任をもつことや、うまくいった症例はもちろんのこと、うまくいかなかった症例でも吟味検討することの重要性を学びました。素晴らしい先生方、同期、後輩に囲まれ、毎日が本当に充実していました。皆様のご活躍を楽しみにしております！

● 戸田匡太郎（2020年慶應義塾大卒）

研修が終了して2年間の振り返ると、自由度が高く主体的に学び、経験することができる環境で指導熱心な上級医のもとで診療を行い、充実した初期研修だったと実感しています。積極的に学び成長したいと考えている方は是非当院での研修をお勧めします！

● 夏目隆太郎（2020年東京医科大卒）

入職当初、点滴速度や薬の一般名も何もわからず、全く戦力にならない自分自身を無力に感じたことを覚えています。教育的な先生方のご指導の下、時には厳しく叱られることもありましたが、初期診療や病棟診療の基礎を築くことが出来ました。4月から形成外科を専攻する際も、臓器横断的な診療マインドを持ち続けたいと思います。向上心があり、優しい最高の同期にも恵まれて、当院を初期研修病院に選んで本当に良かったです。2年間大変お世話になりました。

● 西村日向（2020年筑波大卒）

2年前のこの時期、済生会中央病院に入職したことを昨日のように思い出します。

初日救急外来に配属となり、右往左往していた僕に声をかけてくれ、厳しくも温かく色々なことを教えてくれた上級医の先生や先輩、看護師や事務の方々には今も頭が上がりません。まだまだ未熟ですがこんな僕でも医者としての基本が身についたのはこの病院であったからだと思います。また研修医をもしするならまた済中でやりたいと思います、本当にありがとうございました。

● 二宮裕樹（2020年筑波大卒）

あっという間に2年間の初期研修が修了しました。率直な感想は「医師という仕事は楽しい」です。こう感じるのも2年間の充実した毎日を送られたからだと思います。済中で学んだことが医師としての土台にあると自信も持って、これから脳外科人生を歩んでいきたいと思っています。最後になりますが、2年間の熱い御指導をして下さった先生方、優しく共に働いて下さったコメディカル・スタッフの方々に御礼申し上げます。未来の研修医の後輩の成長も心から願っております。

● 藤原弘毅（2020年慶應義塾大卒）

2年間の研修はコロナ禍であり、当初自分が思い描いていた研修生活と異なる部分もありましたが、総じて大変実りのある研修生活を送ることができました。

改めてこの場をお借りして、初期研修医生活を支えてくださった全ての関係者の方々に厚く御礼を申し上げます。今後も患者さんに寄り添っていける外科医になれるように精進して参りたいと存じます。

また当院での研修を考えている後輩には、今後の医師人生の糧となる良い研修を送れる病院ですので是非一度見学にいらしてください！

● 横田広太郎（2020年琉球大卒）

はじめまして研修医2年目の横田 広太郎です。

この病院での研修が終わろうとしています。始まった当初は2年間は長すぎると思っていましたが終わりが近くなるとあっという間に感じます。大変だったことや辛かったことがたくさんありますが同期や指導医先生方や事務の方々、後輩達に恵まれ大きな問題なく終えることができそうです。

研修病院を探す際に病院によって経験できることは様々だと思います。そういうものももちろん大切ですが患者や医学に向き合っていく姿勢が尊敬できる病院で研修することを勧めたいと思います。2年間ご指導していただきありがとうございました。

● 吉本史菜（2020年岡山大卒）

済生会で研修して2年、いい同期に恵まれ、優しく時に厳しい先生方に日々手厚い指導をいただき、目の前の患者さんと向き合ってきました。最初の1年間は失敗ばかりで机上でやっていたことが何も活かせず患者のためになっているのかと落ち込んだこともありましたが、周りに支えられ、自分のできることを一つずつ確実に増やす

ことに努めました。目の前で苦しんでいる患者さんを助けるために出来ることは何か、優先順位常に考え、できることが増えてきました。患者にとってよりよい治療方針を遅くまで考え指導医に提案したり、朝早くからベッドサイドで患者の話を聞いたり、そういった日々の小さなことが大切なのだと思います。当院は、初期研修医の裁量権が大きい一方で、常に後ろで先生方が見守ってくださるので間違ったことをしそうになるとそっと軌道修正してくれます。そんなトライアンドエラーを繰り返すことができる環境で、医師として最も大切な二年間を過ごすことができ本当に良かったと思います。三つ子の魂百までと言いますが、今後も患者を第一に、真剣に取り組み自分を磨き続ける姿勢を常に持って、医師として精進し続けたいと思います。

最後になりますが、2年間支えてくれた同期、手厚いご指導いただいた指導医の先生方、我々の研修生活をより良いものにしてくださった臨床研修室の方々に心より感謝申し上げます。